



東 俣 野 7月号

東俣野小学校 学校だより 平成27年7月2日

子どもの体力・運動能力の現状から・・・

校 長 村田 幹男

先日、全学年が「新体力テスト」を実施しました。多くの保護者の皆様にボランティアとしてお手伝いいただき大変助かりました。（1,6年時：12名 3,4年時：15名 2,5年時：13名）

「新体力テスト」といってもピンとこない方もいらっしゃるかもしれませんが、「スポーツテスト」といえば「ああ、学生時代にやったなあ。」と思い起こすことでしょう。

文部科学省では1964年（昭和39年）の東京五輪開催を機に、毎年「体力・運動能力調査」を実施しています。1998年（平成10年）までは一般的に「スポーツテスト」と呼ばれていましたが、翌年から大幅な改訂が行われ、「新体力テスト」と呼ぶようになったのです。

小学校で実施する種目は「50m走」「反復横跳び」など変わらない種目もありますが、「立位体前屈」から「長座体前屈」、「踏み台昇降」から「20mシャトルラン」というように変わった種目もあります。

データの蓄積からは、子どもの体格が発達してきた一方、総合的な体力、運動能力は1985年（昭和60年）頃をピークとして低水準であることがわかります。例えば11歳の男女「50m走」と「ソフトボール投げ」について昭和60年度と平成24年度の全国平均値を比較すると、次の表のように平成24年度の方が低い数値となっています。他の種目も親の世代と比べるとほとんどで下回っているのです。

<50m走 11歳>

	昭和60年度	平成24年度
男子	8.75秒	8.81秒
女子	9.00秒	9.13秒

<ソフトボール投げ 11歳>

	昭和60年度	平成24年度
男子	34.00m	29.58m
女子	20.50m	17.41m

外遊びの機会と場所の減少による経験不足が背景の一つとみられます。特に、高学年男子のソフトボール投げの距離が5mほど落ちていることはその象徴的な結果ともいえそうです。

小学校現場に30年以上いる私も、昔と今の子どもたちの「動き」のちがいを感じ取っています。ボール投げの場面ではぎこちない投げ方をする子が多く見られるようになりましたし、マット運動の場面では体がかたくてスムーズに回れない子も増えているように感じます。また、運動会で披露する「組体操」の技の練習の際には、昔の子たちと比べると、支持力・バランス力の低さを感じます。運動会で披露した本校高学年の組体操は、子どもたちが相当がんばって、教職員も指導・支援を工夫して、時間をかけて練習を重ねたからこそ、仕上がった内容なのです。

昭和60年頃をピークにだんだん低下していった子どもたちの体力・運動能力も平成11年からは横ばいまたは緩やかな向上傾向にあるようです。子どもの心と体の健やかな成長のために、家庭でも学校でも運動遊びの機会を大事にしたいものです。